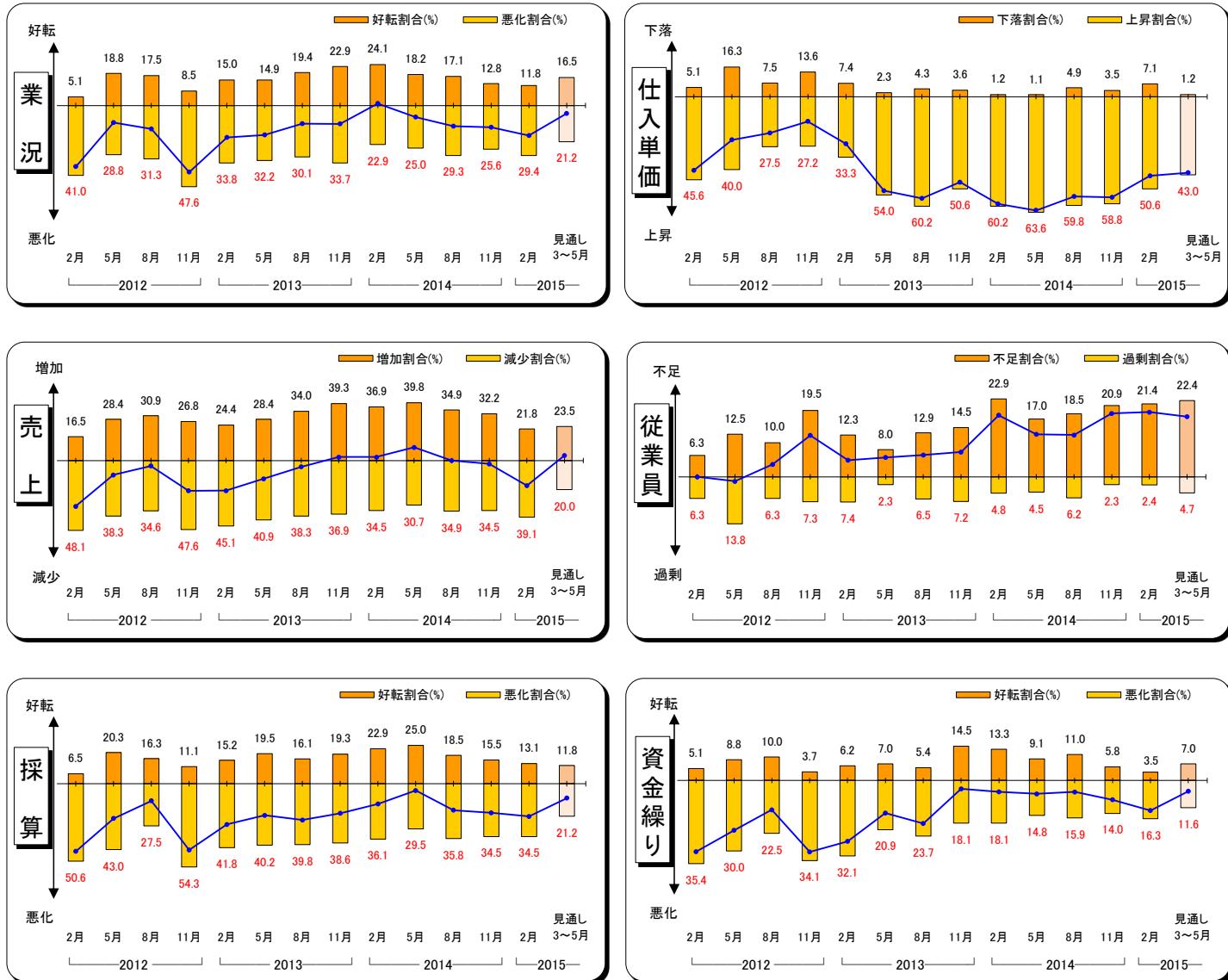


【製造業】①



【製造業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

パン製造業	当社は食品製造業の為、輸入原材料の値上げが相次いで仕入単価の上昇が続き、採算が厳しくなってきている。対策として、直接販売に力を入れ販売単価のアップと利益率の向上を目指している。更に、単価の高い新商品を開発し販売単価を高める取り組みを進めている。
オフセット印刷業	取引先の事業縮小や廃業が相次ぎ、影響を受けています。
コンクリート製品製造業	昨年、わずかながら製品の値上げをしました。建設関係の製品製造・販売をしていますが、販売一物件あたりのボリュームが以前に比べて非常に小さくなりました。物件数は増えて忙しいのですが、売上は伸びていません。かかるコストは値上げした分で相殺されている感があります。
建設用金属製品製造業	景気浮揚策の実施に期待します。
建設用金属製品製造業	厳しい状態が続いています。この状況をいつ抜け出せるか、常に考えつつ企業活動を行なっています。また、国の補正予算、本予算と今後の成長戦略を押し上げるべく大きな数字になっているので、この先は仕事量も増え、景気が良くなっていくことを大いに期待したいものです。
金属製品製造業	社会保険の強制加入が大きくのしかかる。売上金に加算して請求できるというが、そう簡単ではない。
はん用機械・装置製造業	弊社は省力機・自動機等、設備機械の製造・販売をしている会社です。円安の影響から大手メーカーで国内回帰の動きが見られ、来年度の引き合いが多くなってきています。
金属工作機械製造業	新規開発した機械の効果もあり、専用機の売上、引き合いが多くなり、全体の売上アップにつながっています。研究開発は必要と痛感いたしました。
生産用機械・同部品製造業	相変わらず、期末になると短納期物件が増加して多忙であるが、先行きは不透明である。負荷の平準化が課題。
理化学機械器具製造業	売上は前期に比べて増加しているが、国内向けは減少傾向が続いている。このため売上に占める輸入の比率が非常に高くなっています。輸出先の業界の動向を注視している。
集積回路製造業	大手企業は、例え円安によって景気回復しても、数年前のリーマンショックのような出来事が再び発生したり、いつ円高に転じるか分からぬ為、決してコスト削減の手を緩める事は無い。当社の売上増加に関しては、昨年から準備をしていたことが実績に結びついている。設備投資についても、ロボットを輸送するために車を特注、さらに既存設備を改修し、某社のチラ（循環液温調装置）トレーニングを付け、修理指定業者として行う。ロボット修理・チラ修理は今期後半に期待する。社員賃金に関しては、会社としては賞与支給やベースアップをしたいが、まず事業安定化に向けて努力し、安定すれば自ずと社員に協力が出来るはず。